オリーブの会通信

２０２３年 12 月 20 日第 37 号（通巻 43 号）
オリーブの会
大阪府豊能郡能勢町平通１０１－４５３
tel/fax;072-737-9454
mail; oribunokai@gmail.com
facebook;oribunokai

مجموعة الزيتون

イスラエルのによるパレスチナ人の民族浄化、ジェノサイドを止めよう

　イスラエル占領軍によるパレスチナ人の虐殺が続いている。ガザではすでに 2 万人が殺された。その半数以上が子供と女性である。人々は住居を無差別に攻撃されることで、生き延び避難した病院、学校などで殺されている。もうイスラエルはハマスの拠点があるとか言わなくなり、無差別攻撃を繰り返している。ガザは、逃げ場のない地獄となっている。ガザは食料、水、燃料、衛生、シェルターのない場所になり、イスラエルによるパレスチナ人の虐殺の場になっている。さらに雨期に入り、感染症の拡大で、さらに困難な状況に置かれている。

また、ヨルダン川西岸でも、10 月 7 日以来 300 人近いパレスチナ人が殺され、抵抗運動の拠点とするジェニンなどは、包囲し、抵抗運動の容疑者を殺害するだけでなく、大量の市民を拘束し、家屋を破壊し、町のインフラを破壊している。同時に入植者たちが、パレスチナ人を襲撃し、彼らを追い出し、土地を占拠し収奪することを繰り返している。彼らの犯罪は罪に問われることなく、占領軍に守られ悪事の限りを行っている。

　イスラエルは、こうした行動をテロリストからイスラエルを守るとしているが、彼らのテロによる支配は、これまでもそうであったように、怒りを生み出し、さらなる暴力をつくりだすだけである。この地獄を生き延びた子供たちは、決して地獄を作り出したものを忘れないだろう。イスラエルにとって、最終的な解決は、地獄を経験したパレスチナ人を消滅するという最終的な解決しかなくなる。ナチがユダヤ人の最終的解決をめざしたように。

イスラエルの主張は嘘だらけである。

この戦争は、10 月 7 日ハマスが「テロ」で 1400 人のイスラエル人を殺したとして、ハマスの一掃、人質の解放、イスラエルによる占領を目的に開始された。　ネタニヤフ首相は､イスラエルの「９・１１」であり､ホロコースト以来の虐殺であり、ハマスは子供を切り刻み、女性を強姦している野蛮人であるといった。しかし、今や野蛮人はだれか、明確になっている。しかも、イスラエルが発表したイスラエル人が殺されたという数字は怪しい数字であることが明らかになっている。

10 月 7 日から 10 日後に 1200 人に死者は突然減った。200 人はハマスであったというのである。それは、遺体が、焼け焦げ、イスラエル人かハマスがわからなかったといい、その後 200 人がハマスの遺体であったと確認した。これは何を意味しているのかというと、イスラエル人、ハマスの区別なくイスラエル占領軍が焼き殺したことを意味している。ハマスが自ら焼けこげるというのは考えられない。さら、ガザ周辺の入植地の攻撃、人質になり生き延びた入植者、攻撃をしたイスラエル軍の兵士の証言から、イスラエル軍が、イスラエル人入植者、ハマスを無差別に殺したことが証言されている。また、イベントへの攻撃についても、イスラエル警察の証言から、ハマスは、このイベントを攻撃対象として、計画しておらず、偶然それを発見したことと、ハマスは人質を確保するために侵入したが、殺害は、そのあとに来たイスラエル軍のヘリコプターによる無差別な攻撃でハマス、イスラエル人もろとも殺害している。ハマスの攻撃で 300 人以上が殺されたとしているが、ハマスの小火器では、一挙にそれだけの人々を殺すことはできない。できるのは唯一イスラエルの火力である。また、ハマスのロケット攻撃でも、イスラエルはアイアンドームで迎撃をしており、これまでも、大規模な損害を与えたことはない、また、5000 発以上のロケットで、防ぎきれなかったとしても、その破壊力は数百人を一挙に殺すことはできない。反対にイスラエル軍の爆弾は一発で建物を全壊させることができる。現在も、ガザで毎日数百人が殺されている。

その意味では、1200 人の犠牲者としている数字は怪しいものである。2 か月経っても、増えてはいない。ハマスは、イスラエルへロケット飛ばし続けているが、ほとんどけが人もでていない。イスラエル兵は 10 月 7 日に 300 人戦死とされており、ガザへの地上侵攻で 100 人近くが殺され、400 人以上の兵士が殺されている。

またガザ北部のアハリーアラブ病院への爆撃で一挙に 500 人近くを殺害したときも、イスラム聖戦のミサイルの誤射であるとごまかそうとしが、その後の病院、学校への攻撃の仕方は、まさにイスラエルしかできないことを示した。

さらにガザ最大のアル・シファ病院にハマスの司令部があるという嘘は、当初は CG まで使って、大規模な司令部があると主張して、ガザ最大の病院へ攻撃を正当化し、占拠したが、そのようなものは、存在は発見されることはなかった。攻撃を正当化するため、わずかな武器、やラップトップをおいてこれが､ハマスが司令部として使っていた証拠とした。そして、そのあと地下道を発見したとして報道陣に公開したが、今度は、労働党の党首のバラクが、CNN とのインタビューで、その地下道は、イスラエルが占領している時に作ったものであることを暴露した。イスラエルは、ハマスが民間人を人間の盾にしているとして、無差別攻撃を正当化している。その嘘がバレたにも関わらず、病院、学校を攻撃し続けている。

また、ネタニヤフは、ハマスの戦闘員が投降していると主張し、ハマスは崩壊しているといったが、その証拠として公開した動画も、また、作られたものであることが明確であった。ハマスが投降しているという動画は、それは、避難していた男たちを拘束し、裸にし、目隠しし、後ろ手に縛り、イスラエル軍の基地に連れ去られたとされてている。さらに、降伏している動画は、裸にされて並ばされている中の一人が、銃と拳銃を両手にもって、イスラエル兵のところに、持ってきているもので、2 回も同じ男性に行わせている。知っている人は、この男性は、アルミ工房の社長で、ハマスとは、関係のない人物であると証言している。普通は武装解除は、最初行うものであり、裸になるまで武器を持っていることはありえない。演出されたものであることはだれが見ても明らかである。このように民間人の男性を一挙に拘束するのは、だれがハマスの戦闘員かがわからないためで、全部捕まえればその中にいるであろうというやり方である。国連への報告では、北部の住民が避難していた住居がイスラエル軍に襲われ、男は裸にされ、その場で殺され、家族は、別の部屋に拘束されたとのことであり、１１人の男性が殺された。

イスラエルの人質の殺害は何を意味しているのか。

人質の解放を掲げてガザに軍事攻撃をしているのにも関わらず、いまだに、取り戻したのは一人だけであり、それは自分で逃げてきた女性兵士だった。しかし、その後 3 人の人質が逃げてきても、殺害してしまった。白旗を掲げても、武器を持っていないということを示しても、ヘブライ語で話しても、イスラエル軍は民間人でも殺すということをしめした。これは、パレスチナ人が同じようにしても殺すということであり、イスラエル軍がここ

でも無差別攻撃を行っていることを示した。明らかにされていることでは、イスラエル兵は、カメラ付きの犬を放して、カメラで確認し、人質がヘブライ語で助けてくれと言っていたにも関わらず、イスラエル兵は人質を殺害した。イスラエル軍が人質解放のために、軍事的な攻撃を続けているということは、事実ではないことを示した。イスラエル国民にも理解され、抗議行動が起こっており、停戦をもとめる声が大きくなり、それがネタニヤフへの圧力になり、再び交渉の道に戻らざるを得なくなっている。

米国は、イスラエルの軍事行動を支持し続けているが、民間人の犠牲をすくなくすることを要求し始めている。それは、米国においても、ガザでの虐殺を前にして、ユダヤ人を含む米国人がバイデンに停戦を行うように要求しているためである。イスラエルは、その圧力に対して、より無差別攻撃を強化した。停戦が実現しないのは、米国に責任がある。国連安保理で、停戦決議に拒否権を行使した。その他の安保理事国は、英国を除いて、支持したにもかかわらず。この米国の行動は、ガザでの虐殺を続けさせることになっている。

欧州での政府の立場が変わってきたことに対して、モサドは、デンマークなどの国にハマスがテロしようとしているという情報を流して、ハマスをテロリストとして印象づけようとしている。ハマスは対外作戦をしたことはない。あきらかに欧州の世論に向けたニセ旗作戦でしかない。

「抵抗の枢軸」のガザとの連帯した攻撃。

レバノンのヒズボラは、南部レバノンから北部イスラエルへの攻撃を行い、イスラエル軍との交戦状態にある。また、イエメンのフーシ派は、紅海でイスラエルと関係した船舶を攻撃し、イスラエルにもミサイルを飛ばしている。また、イラクの民兵組織が、シリア、イラクの米軍基地を攻撃している。米国は、2 つの空母打撃軍を展開しており、また、紅海での攻撃に対抗する有志連合をつくろうとしている。ガザでのイスラエル軍の攻撃は、中東全体に広がる可能性を持っている。しかし、アラブの国で有志連合に、参加しているのはバハレーンだけで、フーシ派と対立してきたサウジなどは加わっていない。

ネタニヤフが存在し、米国が支援している限り戦争は終わらない。イスラエルは、ガザからハマスを一掃するといっているが、それは、ガザのパレスチナ人を一掃するに等しいし、それは、イスラエルによって、実践されている。無差別攻撃、住民の排除はそれを示している。ガザでは、イスラエルによる戦争犯罪が繰り返されている。欧米は、イスラエルの自衛権の行使として、正当化しているが、イスラエルが占領し、支配してきたパレスチナの民族自決権は認められないのか。イスラエル、欧米がテロと呼ぶものは、民族の解放を目指す闘いであり、それは、米欧を含めてパレスチナ人への占領と民族自決権を否定するものである。

イスラエルは、ガザのパレスチナ人住民をエジプトのネゲブに追い出して、イスラエルが占領し、そこにイスラエルの入植地をつくろうとしている。これはナクバの再現である。イスラエルは、ＰＡを含めて、パレスチナが支配することは認めないとしている。

米国は、戦後のガザに PA に管理させようとしているが、それはパレスチナ内で支持を得ていない PA は、無理である。官僚であり、アッバースの後継者とみなされているアル・シェイクは、ハマスを非難した発言をし、それをあとから否定した。

世論調査では 10 月 7 日以降ハマスへの支持は、ガザ、西岸で高まっている。10 月 7 日の軍事作戦を指示したのは西岸で８１％・ガザで６９％である。反対にＰＡの解散を求める声は６０％近くであり、アッバース大統領の辞任は９０％の人々がもとめている。

ハマスと抵抗勢力は闘い続けている。10 月 7 日以来 400 人近くのイスラエル兵が殺害されている。イスラエルの言葉とは、裏腹にハマスは闘い続けており、戦争の長期化と戦争の目的を実現できないイスラエルは、経済的にも耐えられなくなりつつある。ネタニヤフ自身は、自ら罪から逃れるために、戦争をつづけるしかないが、イスラエル国民が耐えることはできなくなるだろう。また、戦死者の増大は、国内から戦争をやめるように圧力を高める。現在の停戦と人質交換の再開はその兆候である。

戦争をやめさせるためには、国際的な世論をさらに高

2023 年 12 月 11 日の記事、特集

パレスチナクロニクル編集者

イスラエル軍の数は合算されていないようで、ガザで死傷したイスラエル兵士の実際の数についてさらに疑問が生じている。

ガザでのイスラエル戦争の開始以来、イスラエルの死傷者に関する情報は完全にイスラエル軍に任されていた。

イスラエルの国民、国内外のメディアは闇の中に取り残され、現地でのイスラエルの実際の損失を知ることもできず、ダニエル・ハガリや他のイスラエル軍の報道官らの主張を検証することはもちろん、独自に調査することもできなかった。

ガザでもレバノンでも他の場所でも、あらゆる種類の軍事戦闘に関連する情報に対してイスラエル政府が出した緘口令はこれが初めてではない。

しかし、この緘口令は最も厳格なものであり、イスラエルの新たに設立された戦争評議会のみが、戦争に関するあらゆるニュースを自らの政治的目的のために使用、差し止め、または操作する権限を与えられていた。

しかし、戦争が始まるにつれて、その任務は 3 つの主な理由によりさらに困難になりました。

一つは、10 月 7 日に起こったことに関するイスラエル政府による明らかな嘘と捏造の多さ。

これには、乳児の首切り、集団強姦、レム・キブツでの音楽コンサートに参加していたイスラエル人の無差別殺害の疑惑が含まれているが、これらすべては誤りであることが暴かれているか、まったく証拠が伴っていない。

2 つ目は、10 月 7 日に殺害されたとされるイスラエル人の数の突然の変化です。その数が 1,400 人から 1,200 人に減少しただけでなく、軍人と民間人の比率も劇的に変化しました。 軍関係者の名前は数週間かけて徐々に公表された。

3 つ目、そしておそらく最も重要なことは、ガザのパレスチナ抵抗グループが作成した十分に記録された証拠であり、爆破されたイスラエル軍戦車の数や、個別に狙撃されたり集団で狙われたりするイスラエル兵のクローズアップを示している。

しかしそれでもイスラエル軍の数は合算されなかったようで、ガザで死傷したイスラエル兵士の実際の数についてさらに疑問が生じた。

墓場掘り人

11 月 18 日､ヘルツル山軍事墓地の所長であるデビッド･オーレン・バルーク氏は、軍内で 1 時間から 1 時間半ごとに 1 人のイスラエル兵が埋葬されていると明らかにし、イスラエル軍の実際の死傷者数を隠すという戦争評議会の使命を複雑にさせた。

「私たちは今、1 時間ごとに葬儀があり、1 時間半ごとに葬儀が行われる時代を迎えています」とバルーク氏は述べ､「私はたくさんの墓を開くように頼まれた。 48 時間で 50 人の兵士を埋葬できたのはヘルツル山墓地だけだ。」

イスラエルの主流メディアはバルーク氏のコメントを完全に無視するか、ほとんど報道しなかった。 しかし、すでに、そして当然のことながらイスラエル軍関係者に

疑問を抱いていた人々は計算を始め、実に数百人のイスラエル兵がガザでの戦闘で死亡したと結論づけた。

それでも、この話はすぐに無視され、明らかに全体を物語っていないイスラエルの軍事統計に再び置き換えられました。

説明できないギャップ

奇妙なことに、11 月 28 日、イスラエルの新聞ハアレツは、ガザに対するイスラエルの戦争が始まって以来、1,000 人の兵士が負傷したことを明らかにした。 この数字はイスラエル軍関係者によって実際に明らかにされたものであり、不可解なことに緘口令に違反しているため、奇妙なことです。

多くの人がその数に驚嘆している一方で、なぜイスラエルの主流メディアが軍の命令を無視してイスラエルの負傷者に関する情報を公表することが許されているのか明確な説明がないまま、さらに多くの数が明らかになった。

例えば、イェディオト・アロノスは 12 月 9 日、ガザ戦争の開始以来 5,000 人のイスラエル兵士が負傷し、そのうち 2,000 人がイスラエル国防大臣によって障害者として正式に認められたと報告した。

しかし 12 月 10 日、ハーレツは「負傷兵が入院し治療を受けている病院とハーレツが行った検査の結果、軍が報告したデータと病院からのデータの間には、説明のつかないかなりの乖離があることが判明した」と明らかにした。

イスラエルの新聞によれば、「病院のデータによれば、負傷した兵士の数は軍のデータ数の 2 倍である」という。

「軍のデータと病院のデータの間のギャップも、ウェブサイトで維持されている保健省の統計を考慮すると浮き彫りになります。 この Web サイトには、民間人も兵士も含めた一般的な死傷者数のデータが表示されます。 保健省のデータによると、10 月 7 日から 12 月 10 日までに戦争で負傷した兵士と民間人 1 万 548 人が入院した。このうち、彼らがパレスチナ人ではないというあらゆる兆候を示しながら 131 人が入院し、471 人が重篤または重篤な状態で入院し、868 人が中等症とされた。

さらに、8,308 人が軽傷を負い、600 人が不安発作を起こし、206 人の容態は不明である。 軍の負傷兵数 1,593 人という数字は、入院者数全体のわずか 15 パーセントにすぎないが、戦争関連の死傷者のかなりの部分が兵士であることが予想されるため、これは異常に低いように見える。」

考えられる説明

パレスチナ人ジャーナリストでパレスチナ・クロニクル編集者のラムジー・バロウド氏は、「イスラエルのベンヤミン・ネタニヤフ首相が、達成不可能であることを十分に承知の上で、ガザ戦争に高い目標を設定したことは最初から明白だった」と語った。

「ネタニヤフ首相は単に、この戦争がイスラエル国民の怒りを、自分の失敗した政府に対するものではなく、ガザの民間人にぶつける場として機能することを望んでいたのだ」とバロウド氏は付け加えた。

ストックトン大学のホロコーストと大量虐殺研究の准教授ラズ・シーガルの言葉を借りれば、その結果は「大量虐殺の教科書的な事件」だった。

「ガザへの攻撃は、別の言葉で理解することもできる。つまり、私たちの目の前で展開される大量虐殺の教科書的な事件として」とシーガル氏は書いた。

しかし、戦争が何万人ものパレスチナ人（そのほとんどが女性と子供）の死傷を引き起こした後でも、イスラエル国民の戦争への欲求は決して衰えなかった。

「これはネタニヤフ首相にとって大きな問題となった。彼は戦争を強く主張したが、時間が経つにつれて、これは勝ち目のない戦争であることに気づいた」とバロウド氏は語った。

「やればダメ、やらなかったらダメ、という話だ。 戦争が続けば、数百人、実際には数千人のイスラエル兵士が死傷するだろう。 しかし戦争が終われば、ネタニヤフ首相は間違いなく恥をかかされ、彼の政治生命は屈辱的な終わりを迎えることになるだろう。」

したがって、バロウドによれば、戦争の実際の費用に関する情報は、緘口令にも関わらずイスラエルのメディ

アによって非公式に公開されているが、これはおそらく「イスラエル人に、現在進行中のパレスチナ人に対する大量虐殺にも多額の費用がかかっていることを思い出させる」という期待があったのだという。

もしこれが事実であれば、ネタニヤフ首相のガザ戦争について、そのような「リーク」と非公式とされる暴露がさらに増える可能性が最も高い。その戦争は「ハマスを排除する」ことを目的としていたはずだが、その代わりに、イスラエル軍が今もなお受けている評判を抹消しようとしているのだ。

（パレスチナクロニクル）

2023 年 12 月 16 日の記事、特集

ラムジー・バロウド & ロマーナ・ルベオ

イスラエルはハンニバル指令の一環として自国の人質を殺害しているのだろうか、という疑問が再び浮かび上がってくる。

パレスチナ抵抗運動ハマスの武装組織アル・カッサム旅団の軍報道官、アブ・オベイダは土曜日の声明で、イスラエルがガザで捕虜のうち 3 人を「意図的に処刑した」と非難した。 この問題の重荷と義務を（自分自身で）取り除くことを試みる。」

アブ・オベイダ氏の主張は、ベンヤミン・ネタニヤフ首相率いるイスラエル政府が、自らの政治的生き残りのために戦争の延長に執着しているため、人質の解放を単に優先していないという非難として容易に理解できるだろう。

しかし、話には続きがあります。

「時間がなくなりつつある」

ベイルートでの記者会見で、ハマスの最高幹部オサマ・ハムダンは、戦争開始以来、ガザで自国軍によって殺害されたイスラエル兵の数を示すビデオを上映した。

イスラエル軍報道官によると、各画像の後には番号が付けられており、最後の画像は金曜朝、ガザ市シェジャヤ地区で逃亡を試みたが自国軍によって殺害された 3 人の軍捕虜だった。

ハムダンによって表示されたアル・カッサムのビデオは、イスラエル軍によってさらに別の人質の死亡が発表される直前に準備されたようだ。

ビデオはヘブライ語で「時間がなくなりつつある」を意味するフレーズで終わった。

しかし、ハムダンのカウンターだけがタイマーを意味し、「時間がなくなりつつある」ことを意味するものではなかった。

ガザ地区のイスラエル軍捕虜の家族も、テルアビブの大きな広場に専用のタイマーを設置し、政府が家族の解放交渉を怠ったことに抗議している。

最大規模の抗議活動は通常土曜日に開催され、時間の経過とともにその勢いが増している。 しかしイスラエ

ル政府は軍事的選択肢を追求することに固執している。

しかし、軍事的選択肢は捕虜を救うのではなく、殺すことのようだ。

バルークらを殺害する

イスラエルによるガザ爆撃の初日から、パレスチナ抵抗勢力は、数千人のパレスチナ民間人とともにイスラエル民間人人質と軍捕虜が殺害されたと繰り返し発表した。

その後、彼らの死は、現在までに 1 万 8,800 人以上のパレスチナ人を殺害したイスラエルによるガザ無差別爆撃の直接の結果であると理解された。

しかし、10 月 27 日にイスラエル軍による地上侵攻が始まって以来、その論理は十分ではなくなった。

12 月 8 日、イスラエル軍司令官らは救出作戦を実施しようとしたが、もし成功していれば、10 月 7 日にレジスタンスが実施した軍事作戦の後、イスラエルの集団的信頼を高めることになったであろう。 ただし、そうではありませんでした。

イスラエル襲撃犯は人質の一部を救おうとしたが、死傷者を連れて逃走に成功したようだ。

しかし、アル・カッサム旅団による記録されたビデオ証拠に基づくと、彼らは死亡したイスラエル軍捕虜サール・バルークも置き去りにしていた。

バルークさんの遺体は銃弾だらけで、胸や左目にも銃弾の跡があり、イスラエルの救助隊員によって殺害されたと憶測が広がっている。

パレスチナとアラブのメディアはこの事実を詳細に議論したが、イスラエルのメディアアナリストはほとんどそれを避けた。

しかし疑問は解消せず、金曜、イスラエル軍がシェジャヤから逃亡しようとしていた自国の兵士３人の処刑（彼らは「誤って」殺害したとしている）を認めたとき、本格的に戻ってきた。

イスラエルの新聞ハアレツによると、囚人たちは殺害されたとき白旗を振っていた。

「その地域の建物の上層階の 1 つに駐屯していた兵士は、白い布がついた長い棒を持った 3 人の人物を確認した。報告書には、何らかの理由で兵士が脅威を感じ、グループに向かって発砲したと述べられている」とハアレツは報告した。

故意に殺された？

シェジャヤはパレスチナ抵抗運動の最も厳しい場所の一つであり、激しい戦闘により既に数十人のイスラエル兵が死亡しているシェジャヤでは、イスラエル兵が集団的にパニックを感じていることは理解できるだろう。

しかし、理解が難しいのは、逃亡を試みた兵士たちが、パレスチナ民間人を無作為に殺害するという自分たちの同僚の反応をすでに予期していたことである。 そこで彼らは事前に服を脱ぎ、白旗を掲げてヘブライ語で叫びました。

後者はパレスチナ抵抗勢力が主張したものではなく、イスラエル人自身が認めたものである。

しかし、なぜこの三人の捕虜は射殺されたのでしょうか？彼らがパレスチナ人ではないというあらゆる兆候を示しながら、当初、イスラエル軍は、死亡した捕虜は、それが何であれ「アラブの服」を着ていたと主張した。その後、イスラエルのメディアはイスラエル軍関係者の話として、兵士らが衣服の一部を脱いだことを認めた。

では、彼らは故意に殺されたのでしょうか？ 「はい」の場合、その理由は何ですか？

ハンニバル指令

「ハンニバル指令」とは、いかなる犠牲を払ってでも敵軍による兵士の捕虜を阻止するためにイスラエル軍が採用した物議を醸す手順の名前である。

フォレンジック・アーキテクチャーの創始者エヤル・

ワイツマン氏によると、この指令は「たとえ自軍を攻撃し、損害を与えるという代償を払ってでも、誘拐はあらゆる手段を使って阻止しなければならない」と規定している。

イスラエル・ガザ国境地域のイスラエル人入植者の証言によると、イスラエル軍はレジスタンスが自国民を人質にするのを防ぐかのように多くの自国民を殺害した。

これらの報告はイスラエルのメディアにも届きました。

ガザ地区とイスラエルを隔てるフェンス近くにあるキブツ・ベエリの生存者ヤスミン・ポラットさんは、イスラエル・ラジオのインタビューで、10 月 7 日のハマスの作戦後、イスラエル軍が「間違いなく」多数のイスラエル民間人を殺害したと述べた。

「彼らは人質を含む全員を排除した」と彼女はイスラエルのラジオに語った。「非常に激しい十字砲火があり、戦車砲撃もあった。」

ハムダンのカウンターによれば、最新の女性兵士に加えて、少なくとも 9 人のイスラエル人人質と捕虜がイスラエル軍によって殺害され、イスラエルが人質一人を救出しなかったことを考慮すると、最初の疑問が再び自分自身に課せられる。 イスラエルはハンニバル指令の一環として人質を殺害しているのか？

ガザでの戦争全体は、パレスチナ民間人にとってどれほどの犠牲を払ったとしても、前例のないほど多くの死者と負傷者が出ていることから、イスラエル軍にとっても自殺行為であると主張する人もいるかもしれない。

いずれにせよ、イスラエル軍が捕虜を「意図的に処刑した」というアブ・オベイダの声明は、何もないところから生まれたわけではない。

そして、自国軍によって殺害されている捕虜たちに残された時間は尽きつつあるが、ネタニヤフ首相はハマスのビデオやテルアビブ最大の広場の一つに表示されるタイマーの時間を気にしていないようだ。 それもまた時を刻み続けるからです。

- ラムジー・**バロウド**博士はジャーナリスト、作家、そしてパレスチナ・クロニクルの編集者です。 彼は 6 冊の本の著者です。 イラン・パペと共同編集した彼の最新の著書は、『解放への私たちのビジョン：熱心なパレスチナ指導者と知識人が声を上げる』です。 彼の他の著書には、「My Father was a Freedom Fighter」や「The Last Earth」などがあります。 Baroud は、イスラム・国際問題センター (CIGA) の上級研究員です。 彼のウェブサイトは www.ramzybaroud.net です。

- ロマーナ・ルベオはイタリアの作家であり、パレスチナ・クロニクルの編集長です。 彼女の記事は多くのオンライン新聞や学術雑誌に掲載されました。 彼女は外国語と外国文学の修士号を取得しており、視聴覚とジャーナリズムの翻訳を専門としています。

2023 年 12 月 13 日 ブログ, ニュース

パレスチナ・クロニクル・スタッフより

水曜日に発表された新しい世論調査では、ハマスの人気と 10 月 7 日の軍事作戦に対するパレスチナ人の見方が高まっていることが示された。
パレスチナ政策・調査研究センターが実施した新たな世論調査によると、占領下のヨルダン川西岸地区でハマスへの支持が３カ月前と比べて３倍以上に増加した。

ガザ地区では、戦争と包囲された飛び地で住民が耐えている困難な状況にもかかわらず、パレスチナ抵抗運動ハマスへの支持も増加している。

さらに、世論調査によると「マフムード・アッバス大統領とそのファタハ党に対する支持率は大幅に低下した」という。

「同様のことが PA 全体に対する信頼にも当てはまり、解散を求める声は 60%近くまで上昇しており、これは PSR の世論調査で過去最高を記録した。」

しかし、最も衝撃的な数字は、パレスチナ自治政府のマフムード・アッバス大統領に関する数字である。 世論調査によると、「アッバス氏の辞任要求は約 90%に上昇しており、ヨルダン川西岸ではさらにその割合が高くなっている」という。

10 月 7 日にハマスがイスラエル南部で実施した軍事作戦について尋ねたところ、圧倒的多数（ヨルダン川西岸では 81 ～ 89%、ガザ地区では 69%）が、これは「アルバニアへの入植者による攻撃への対応」であると答えた。アクサ・モスクとパレスチナ国民、そしてイスラエル刑務所からの囚人の解放を求めて。」

また、ヨルダン川西岸地区では 72 ～ 82%、ガザ地区では 57%という大多数がイスラエル攻撃というハマスの決定を支持した。

ハマスが 10 月 7 日に残虐行為を行ったと思うかとの質問には、圧倒的多数が「ノー」と答えた。

（パレスチナクロニクル）

ガザにおけるイスラエルの大量虐殺行為の背後にある動機は何でしょうか、そして今後はどのように進むのでしょうか？

ヨアヴ・リトヴィン
ヨアヴ・リトヴィンはイスラエル系アメリカ人の心理学 / 神経科学の医師、作家、写真家です。
2023 年 12 月 21 日発行アル。・ジャジーラ
2023 年 12 月 21 日

10 月 7 日、ハマスの戦闘員がガザ地区の刑務所のフェンスを突破し、少なくとも 7 つのイスラエル軍事施設と周囲の 20 以上の住宅コミュニティに連携した攻撃を開始した。 この攻撃により、民間人、軍人合わせて 1000 人以上のイスラエル国民と数十人の外国人が死亡した。 他に約 240 人が捕虜となった。 不意を突かれ混乱したイスラエル軍は狂乱状態で攻撃に反応し、突破された地域に無差別に発砲し、その過程でハマスの戦闘員とともにイスラエル人捕虜を殺害した。 イスラ

エル軍が失われた領土をすべて奪還し、ガザ境界線を確保するのにほぼ１日かかった。

ハマスの前例のない侵攻を受けて、イスラエルの広報機関は恐怖と怒りを煽ることを目的とした誤った情報キャンペーンを開始し、未確認の残虐行為のプロパガンダを広め始めた。 このキャンペーンは、赤ん坊が「一斉に首を切られ」、「燃やされ」、「物干し竿に吊るされた」という話を含むもので、イスラエル国民のショックを大量虐殺的な部族主義に変え、イスラエルの政治的、諜報的、軍事的失敗から注意をそらすことに貢献した。 このキャンペーンはまた、政府が予備部隊の大規模動員に対する重要な国民の支持を集めるのにも役立ち、結果としてガザ地区への本格的な地上侵攻が可能になった。

イスラエルは、西側諸国、特にワシントンの帝国後援者の無条件の軍事的、政治的、外交的支援を確保した後、ハマスへの対抗と捕虜の救出を口実に、AI 主導の「大量暗殺」と正確に説明されるガザでのキャンペーン行動を開始した。

10 週間が経ち、現在ガザの大部分は破壊され、2 万人近くのパレスチナ人が死亡し、さらに多くが瓦礫の下敷きになっており、世界は大量虐殺の展開をリアルタイムで見続けている。 行動神経科学のレンズを通してこれらの出来事を調べることは、シオニスト入植者植民地主義者の力学全般と、イスラエルによる現在のガザ虐殺行為の背後にある特定の動機、そして今後の潜在的な道筋についての洞察を提供する可能性がある。

シオニストのプロパガンダの柱

歴史的なトラウマを受けて、ユダヤ人は反ユダヤ主義に対して深い恐怖を抱いています。 19 世紀後半から 20 世紀初頭にかけて、この恐怖は、抑圧者に対する軽蔑とともに、さまざまな地域でユダヤ人の自治組織の結成につながりました。

ヨーロッパの植民地運動であるシオニズムは、この力関係の可能性を認識していました。 それは、安全と自衛に対するユダヤ人の切望を、白人至上主義、救世主、ファシズムのイデオロギーと融合させたものでした。 この統合により、ユダヤ人の安全を、地域の先住民族の強制移住を通じたパレスチナでの排他主義的な祖国の建設と同一視する、新たな国家主義的なユダヤ人のアイデンティティが誕生した。

入植者の植民地化への取り組みは、通常、標的となる領土を「無人」として描写し、その既存の住民をどの土地にもふさわしくない非人道的な野蛮人として描写することに依存している。

この描写により、シオニストは倫理的な問題なくパレスチナの先住民族を強制退去させることができ、イスラエルの建国を民族の破壊としてではなく、「ジャングルの中の別荘」の建設として描写した。

土地と資源の窃盗を基盤とするイスラエル社会では、「自衛」（「イスラエル国防軍」など）を装った攻撃的侵略が最初から報酬を得て強化され、その結果、日常的な生活の一部となった。 シオニスト指導者たちは、ユダヤ人の過去と現在の否定的な経験に伴う恐怖とトラウマを取り戻すことで、入植者が攻撃的、拡張主義的、覇権主義的、大量虐殺政策を継続的に支持できるようにし、彼らの汚職やその他の犯罪行為を国民の監視から守った。

イスラエルの暴力的に抑圧的な現状を維持し、入植植民地の領土を拡大するために、シオニストは日和見的に自らの植民地イデオロギーとユダヤ教を混同した。

シオニズムのリベラル派は、運動の反動的中核をごまかし、その真の目的である拡張主義とアパルトヘイトを隠すのに役立っている。 誤解を招くことに、リベラル・シオニストはシオニズムを民主的で進歩的な価値観と人権に沿ったイデオロギーとして描き、平和、正義、中東への完全統合への真の決意を誤って投影している。

恐怖と大量虐殺の熱狂

10 月 7 日まで、イスラエルは建国の願望を支持し、暗黙的形態と明示的形態の大量虐殺の間を揺れながら、無限占領の原則を強制した。後者は、2005 年の「撤退」以来のイスラエルのガザへの定期的攻撃に関連して、しばしば「芝刈り」と表現される。 この間、イスラエルのシオニストは、近代的で裕福な、民主的と称される消費者の楽園でパレスチナの土地とその資源の恩恵を享受し、近隣諸国ではなく、白人のアメリカやヨーロッパ、そして石油や現金の豊富な湾岸君主国との強固なつなが

りと同一視を育んだ。 。

10 月 7 日、激しい恐怖と衝撃がイスラエル社会を襲い、ベンヤミン・ネタニヤフ首相の極右政権にとっては、汚職に対する反対運動の高まりを鎮圧し、大量虐殺的な土地収奪で連立政権メンバーを喜ばせる絶好の機会となった。

イスラエルにおける恐怖は、軍事化、反パレスチナの言説、抵抗を「テロ」として再構成し、過去の残虐行為を思い出し、知覚された脅威に焦点を当て、人種差別、すなわちアパルトヘイトを促進することによって維持されている。 慢性的な恐怖は心的外傷後ストレス障害（PTSD）に似た症状を引き起こし、イスラエル国民は「自己防衛」の仮面をかぶった攻撃的傾向にある。

恐怖、人間性を奪うプロパガンダ、侵略に対する報酬、そして激しいアパルトヘイトの有害な組み合わせが、イスラエル人のパレスチナ人に対する共感の欠如を生み出している。 ガザ紛争は「自衛」だと主張しているにもかかわらず、イスラエル指導者らは公然とパレスチナ社会全体を非難し、事実上民間人への集団処罰を容認している。 イスラエルの組織的指導者たちは毎日、パレスチナ文化を嘲笑し、パレスチナ人への拷問、強制移住、殲滅を応援しており、不穏な虐殺的考え方を明らかにしている。

進むべき道

10 月 7 日、リベラル / 民主主義の枠組みの中で慎重に構築された漸進的大量虐殺というシオニストのファサードが崩壊し、イスラエルの大量虐殺とファシズムの中核が暴露された。 イスラエル内外のシオニストはこの茶番劇の終わりを悲しまず、代わりに、何の抑制も見せかけもなしにパレスチナ人を殺害し破壊する新たな自由を祝った。 この発展はパレスチナ人民に排除の脅威をもたらすだけでなく、占領地は新たな軍事技術や戦略の開発と実験のための実験室として利用されているため、パレスチナの抑圧されたコミュニティに対する同様の暴力的エスカレーションの舞台となる可能性もある。 グローバル・サウスだけでなく、BIPOC やグローバル・ノース内の移民コミュニティに対しても反対する。

ガザや歴史的なパレスチナの他の場所でのイスラエルの大量虐殺行為は、スタンフォード監獄実験やミルグラム服従調査で見られたパターンと共鳴している。 後者では、権威に振り回された個人が、他の参加者に致命的なショックを与える可能性がありました。

イスラエル人が侵略中毒を断ち切るには、プログラミング解除と植民地化解除のプロセスを経る必要がある。そのためには、彼らが自国の歴史と本質についての真実を受け入れ、誠実な説明責任を果たし、パレスチナ人の人間性を認識し、彼らの苦しみと窮状に共感することが求められるだろう。 抑圧的な構造であるシオニズムが解体されれば、私は感情移入は効果的に解体され、共感を利用して人間復帰と和解のプロセスへの道を開くことができます。 解放、和解、そしてイスラエルの大量虐殺的暴力の終結は、より広範な左翼、反人種主義、反植民地主義の価値観と一致する、確固たる揺るぎない反シオニストの枠組みの中でのみ達成することができます。

この文章は、パレスチナの詩人、故レファアト･アラリールに捧げられました。

パレスチナ日誌

パレスチナ日誌３７
7 月 8 日
・キレナイカで反定住デモ行進が鎮圧された際の窒息死傷事件
・占領軍がスール・バヘルでの逮捕キャンペーンを開始
・カフル・カドゥムの行進に対する占領軍の弾圧による負傷者数
・ベイトゥニアからジェニンへ：ジェニン市とそのキャンプを建築資材で支援する「One United People」キャンペーンを実施。
・一家離散の決定と入植者の嫌がらせに反対するヌーラの行動は止まらない。
・ベイト・ウンマルで入植者の銃弾を受けた青年が重傷を負った。
・占領軍がアル・アクサを襲撃、ジェニン支援の横断幕を没収
・ラファのハマス、アル・アクサ支持とジェニン陣営の勝利を喜ぶ集会を開催
・ウンム・サファ村で市民が占領軍の銃弾により死亡
・入植者たちがシェイク・ジャラーの週 1 回のデモを襲撃
・占領軍、毎週行われるデラスティアの行進を弾圧
・占領政府、ホメシュ入植地の立ち退き拒否を最高裁に通告
・アメリカの各都市で、イスラエルのパレスチナ人に対する侵略を糾弾するデモ行進が行われる。
・占領軍、ラマッラ東部のシルワドとアル・ムガイルの若者 2 人を逮捕
・ガザ包囲網を打ち破る船〝ハンダラ〟がカーディフとブリスト

ルに向かう
・占領軍がサルフィットで羊飼いを逮捕
・カルキリャ東部で若い男性が占領軍の銃弾により負傷した。
7 月 9 日
・攻撃と爆弾発射占領軍、ジェニン支援の横断幕を撤去するためシュアファト・キャンプを襲撃
・エリコの北、ファサエル村の入り口に集まった入植者たち
・占領軍がヘブロンの子供 2 人を逮捕
・ネタニヤフ政権に反対するデモが 27 週連続で更新された。
・カルキリャの東、カフル・カドゥムで市民 4 人が占領軍の銃弾により負傷した。
・ジェニン旅団がイスラエル軍のブルドーザーが爆発物で爆破されるシーンを公開
・占領軍がヘブロンの市民 4 人を逮捕
・数百人のイスラエル兵が兵役拒否を表明
・占領軍はエルサレム人を逮捕し、他の人々の拘留を延長する
・入植者、ナブルス南部で数十ドナムに焼き討ち
・スモトリッチパレスチナ自治政府への送金は許さない
・占領軍、エルサレムで刺傷未遂の疑いで少女を射殺
・レバノンの代表が、イスラエルによるガジャール村の占領地編入を糾弾する抗議デモを組織。
・占領軍、エリコ北部のベドウィンを取り締まる軍事命令を発令
・占領軍、マサファー・ヤッタで市民を暴行し逮捕
7 月 10 日
・168 人の入植者がアル・アクサを襲撃
・クネセットを襲撃しようとするデモ隊
・「破壊の日」... イスラエル国内のデモ、攻撃、道路閉鎖（ビデオ）
・明け方 -- アスカル新キャンプ襲撃で青年 1 人が負傷、2 人が逮捕される
・イスラエルの活動家たちが「ガイス＝サブ・ラバン」一家の立ち退きに反対してデモを行う。
・エルサレム中心部の新たな入植計画
・300 人の兵士がイスラエル軍の機密部隊での任務終了を発表
7 月 12 日
・ガンツがイスラエルの抗議デモに参加 ... 警察は 66 人を逮捕
・占領軍がフワラ検問所でタムン出身の青年を逮捕
・三度目の正直 ... 入植者たちはサルフィットの西にテントを張った
・窒息死 ... ヨルダン川西岸地区での対立と逮捕
・占領軍ブルドーザー、エルサレムで 2 件の解体作業を実施
・中国共産党とアラブ政党の対話会議にパレスチナ 7 政党が参加
・占領軍がヘブロンで土地公社代表の自宅とその兄弟の家を襲撃
・占領軍がサルフィット北部の土地をブルドーザーで破壊し、オリーブの木を根こそぎ切り倒した。
7 月 13 日
・占領軍、2 つの入植地の境界線を拡大するため、ヘブロン南部の農道をブルドーザーで破壊
・イスラエル軍の攻撃でヒズボラのメンバー 3 人が負傷
・アブ・ルデイナ大統領はジェニン収容所に細心の注意を払う
・入植者たちがサルフィットの西に入植道路を建設
・サルフィットカラワット・バニ・ハッサン占領の嵐
・イスラエルジェニンのミサイルは改良されている
・占領検察はエルサレム総督に 8 ヶ月の禁固刑を要求
7 月 14 日
・占領軍、カランディーヤ検問所で若者を逮捕
・イスラエル最高裁判所、ネタニヤフ首相の罷免を求める請願書の審議を決定
・レポートヨルダン川西岸地区における新規入植ユニット数の大幅増加
・Kafr Thulth で入植者の襲撃により 4 人が負傷
・入植者の攻撃に立ち向かうカラワット・バニ・ハッサンの人々
・セバスティアで市民 20 人が窒息死
・占領軍、解放されたニリンの囚人を逮捕
・占領軍がヘブロンの市民 6 人を逮捕
・ウム・サファでのデモ行進に対する占領軍の弾圧で負傷者が出た。
7 月 15 日
・サルフィトの西側では、占領によって市民が土地を手に入れることができない。
・シン・ベトはエルサレムの若者をイスラエル化する計画を中止させないよう圧力をかけている
・ウンム・サファの人々が入植前哨基地の撤去に成功
・カフル・カドゥムの行進に対する占領軍の弾圧で 6 人が金属弾で負傷
・パレスチナ人 4 人の逮捕－シェイク・ジャラー地区住民とデモ隊への攻撃
・コバルの占領軍との対立で若者が撃たれる
・米下院議員、ヘルツォーク氏の議会演説をボイコット
・占領軍がナブルスを襲撃、大規模な空襲を実施
・米国、ホルムズ海峡周辺の戦闘機を強化
・中国共産党と会談したアラブの政党と勢力は、いくつかの決定に合意した。
・マサファー・ヤッタでの入植者による市民への暴行による負傷者
・占領軍、入植者に暴行されたアル・サム出身の青年を逮捕
7 月 16 日
・占領軍がアル・アクサの門のひとつで若者を逮捕
・ラマッラ近郊で女性が占領軍の銃弾により負傷
・占領軍、シルワンのエルサレム人を逮捕
・占領軍、アラバの若者を逮捕 ジェニン県内の村や町を襲撃
・占領軍は市民 1 人を負傷させ、ヨルダン川西岸地区の市民 8 人を逮捕した。
・トゥク近郊で銃撃、入植者 3 人が負傷
・約 13,000 戸の新規入植ユニット － ヨルダン川西岸地区における入植ユニット数の記録的増加
・占領軍がベツレヘムを包囲
7 月 17 日
・対立と負傷 － 占領軍はベツレヘムを襲撃し、トゥク作戦の実行犯を逮捕すると主張した。
・アメリカの下院議員：イスラエルは人種差別国家であり、2 国家解決は不可能である
・占領軍、テクア作戦実行犯とされるヘブロンのアマル・アル＝ナジャールの家を襲撃
・ハリスでの占領軍との対立による窒息
・負傷者と対立 ... ヨルダン川西岸での逮捕キャンペーン
・イスラエル大統領演説ボイコット運動を率いるイルハン・オマル氏
・入植者がマサファー・ヤッタの農作物を破壊

・入植者、ヘブロン東部の実り豊かなブドウの木約 60 本を破壊
・219 回目のアル・アラキブ村の取り壊し
・占領軍がエルサレムの若者 2 人を逮捕
・エルサレムのダール・アル・ティフェル・アル・アラビ校を占拠する嵐
・アズンで子供が占領軍の銃弾で負傷
・ネタニヤフ首相の政策に異を唱え ... イスラエルの医師がゼネストを発表
7 月 18 日
・ウォッチ － アブ・ゴッシュ村で入植者が車を燃やし、スローガンを書く
・占領軍、エルサレムの自宅から 2 人の兄弟を逮捕
・占領軍、ヨルダン川西岸地区の市民 11 人を逮捕
・アル・イスサウィヤの町を襲撃し、パレスチナ国旗を没収
・ジェリコ：占領軍はアル・ドゥイク・アル・タフタを襲撃し、市民の家を撮影した。
・イスラエル警察、デモ隊に道路閉鎖を警告
7 月 19 日
・占領軍がレバノン国境の監視カメラを修復
・イスラエル警察は、1948 年領土内のジェニン出身の若者を逮捕した。
・占領軍がジェニン北東部で農業用トラクターを押収
・テルアビブ、入植地凍結に関するワシントンとの約束を否定
・ネタニヤフ政権への抗議行動をエスカレートさせるイスラエル国民
・ダマスカス近郊を狙ったイスラエルの攻撃で兵士 2 人が負傷
・毎月行われる入植者の行進 ... 道路閉鎖と意図的な挑発行為
・イスラエル警察、労働者 174 人の逮捕を発表
・占領軍がエリコの若者を逮捕
・シルワンの若者 3 人が逮捕された。
・占領軍、サルフィット西部の庭を接収し市民を襲撃
7 月 20 日
・アル・イサウィヤの町での対立
・クネセト、大学でのパレスチナ国旗掲揚を禁止する法律案を第 1 読会で承認
・ベン・グヴィールの家の近くで ... ヘブロン東部で刺殺テロを実行しようとした疑いで若い男が逮捕された。
・数十人の軍情報将校が予備役服務を停止
・ナブルスでの占領軍との対立による死者 1 名、負傷者 1 名
7 月 21 日
・数百人のイスラエル人が司法改正に反対するデモを実施
7 月 22 日
・入植者がエリコのアイン・サルタン・キャンプを襲撃
・兵士が爆弾で負傷 ... ベイト・ウンマルでの若者と占領軍との対立
・ベイト・ウンマルでイスラエル兵 3 人が負傷
・ウンム・サファ村で占領軍の銃弾により殉教者 1 名、重傷者 1 名
・カフル・カドゥムのデモ行進鎮圧の際、占領軍の銃弾により 3 人が負傷
・占領軍がエルサレムの少年を逮捕
・ナブルス北西部で車両を標的とした占領による死者 1 名、負傷者 1 名
・イスラエルの取り壊しと制限政策に反対するタイベのデモ
・占領軍がベツレヘム東部で 3 人の若者を逮捕
・占領軍がジェニン南部ヤバードの市民を逮捕
・入植者、アル・ダヒリヤでオリーブの苗木 150 本と果樹を根こそぎ撤去
・占領軍、囚人問題研究者タマー・サバアネを逮捕
・ナブルス南部のウリフを入植者が襲撃
・若い男が逮捕された ... 占領軍はジェニン近郊での刺殺テロを阻止したと主張
7 月 23 日
・アル＝マズラア・アル＝ガルビヤで入植者が市民宅を襲撃
・ジャラズーンキャンプでの占領軍との対立による負傷者
・トゥルカルム北部のカフィンの町で、占領軍との対立が勃発した。
・占領軍がジェニン西部で車両を押収
・占領軍がヨルダン川西岸地区の市民 5 人を逮捕
・ヘブロン：入植者が 15 ダムをブルドーザーで破壊し、ドゥラ近郊にテントを設置
7 月 24 日
・アル・ナカラ兄弟たちが当局の刑務所から釈放されるまではカイロには行かない
・ガザでの全国会議が、カイロでの事務総長会議成功の条件を整える
・占領軍、ベツレヘム西部の農道を閉鎖
・イスラエルの 4 大学の学者がストライキを発表、抗議行動に参加
・数万人がテルアビブで司法改正を支持するデモを行う
・ジェニン西部、占領軍との対立で 2 人が金属弾で負傷
・ジェニン西部、占領軍との対立で 2 人が金属弾で負傷
・ヘブロン：占領軍、ベイト・カヒルとベイト・ウンマルの若者 3 人を逮捕
・占領軍海軍がガザ海で 4 人の漁師を逮捕、ボートを没収
・イスラエル軍：ヌール・シャムス・キャンプで 17 人を逮捕、地雷を撤去
7 月 25 日
・トゥルカルムのヌール・シャムス・キャンプ襲撃による負傷者と大規模な破壊
・占領軍によるアスカル・キャンプ襲撃で 2 人が負傷
・″司法弱体化″：デモ隊がクネセットの入り口を封鎖、集落通信も成果なし
・イスラエル全土に広がる抗議デモ ... テルアビブで激しい衝突、逮捕者、デモ隊が轢き殺される
・占領軍がシルワンのアイン・アル・ロザ地区を襲撃
・占領軍がエルサレム人活動家を逮捕
・占領軍、拘束されたジャーナリスト、ニダル・アブ・アカルの行政拘留を更新
7 月 26 日
・占領軍がシャバン大臣を拘束、反定住デモ行進を襲撃
・ベタでの窒息死と占領軍によるカメラ記録の押収
・司法改正によりイスラエルの病院で医師がストライキ
・抗議は最も敏感な場所にまで及んでいる。
・抗議は最も敏感な場所にまで及んでいる。
・シルワン － 3 人の若者が逮捕され、″Bir Ayoub 地区 ″を襲撃した。
・占領軍、ヨルダン川西岸地区の市民 39 人の逮捕を発表
・ウォッチ － 兵士を伴った入植者がパレスチナ人の家を襲撃する
・ウォッチ － 兵士を伴った入植者がパレスチナ人の家を襲撃する

パレスチナの歌

ガザの爆撃で家族もろとも殺害された詩人で大学教授のリファアト・アラリール氏の詩と追悼文です

リファアト・アラリール氏は、彼のメッセージが世界に届いたため殺害された

アスマー・アブ・マタール　電子インティファーダ　2023 年 12 月 17 日

世界の多くの人々が確かに祝福を感じている一方で、今月はガザにおける悲しみと喪失の新たな章となる。 イスラエルの冷酷な虐殺は 10 月 7 日以来続いている。

人生においては、大切な人の喪失という困難に直面することがよくありますが、この現在進行中の大量虐殺の最中に、私は多くの愛する人を失いました。 しかし、レファート・アラリール博士を失うことは特につらかった。

ガザ・イスラム大学の教授であるレファート・アラリール氏は、私の学問の旅において極めて重要な役割を果たしてくれました。レファート博士が講堂に入るたびに、私たちは静まり返りました。彼の声は響き渡り、それぞれの言葉には知恵と知識が含まれており、授業が終わるたびに私たちはもっと知りたいと飢えていました。

レファート博士はウィリアム・シェイクスピアを特別な賞賛の念を抱き、詩であれ演劇であれ、彼の作品を熱心に批評しました。ハムレットが彼のお気に入りで、彼は私たちにシェイクスピアの傑作の一部を翻訳してみるよう常に勧めてくれたので、コースはさらに興味深いものになりました。

思い出が溢れ出す

今月初めのある朝、私は近くで砲撃する不穏な音で目が覚め、ニュースを更新するためにインターネットに接続しようとしました。

レファート博士殺害のニュースを見たとき、私は突然固まってしまいました。

信じられない思いで、私は彼のソーシャルメディアアカウントを繰り返しチェックしましたが、彼がいなくなったことを受け入れたくありませんでした。 彼のアカウントは暗殺前の 2 日間非アクティブでしたが、私はそれがあまりにも一般的になっている接続の問題によるものだと考えていました。

レファート博士によって体現された真実の声が永遠に沈黙させられていたとは、私はほとんど知りませんでした。

今では沈黙した彼のオンライン上の存在をスクロールしていると、彼の早すぎる旅立ちを悼む友人、同僚、学生、ファンの姿を見て涙があふれてきました。 思い出が一気に甦り、大学時代に彼が教えてくれた貴重な教訓を思い出しました。

私は立ち止まり、殺害の脅迫を受けたことに関する彼の投稿を見つめた。 パレスチナに対する彼の言葉は、一部の心無い人々からの強い憎しみを惹きつけるのに十分な力があるように思えた。

レファート博士の精神には、パレスチナへの愛が複雑に織り込まれていました。 彼の言葉は、絶え間なく流れるメロディーのように、パレスチナの名を伝え、彼の日常生活から離れることはありませんでした。

「いつもパレスチナだった」と彼はインスタグラムに投稿したことがある。 「パレスチナです。 それは永遠にパレスチナだ。」

レファート博士は文章の芸術を伝えることに専念し、言葉の力を行使して声を大きくする方法を多くの人に示しました。 彼の目的は、私たちの大義を無視しているように見える人々であっても、彼が他の人に書くように促したページに響く情熱的な叫びを無視できないようにすることでした。

彼はソーシャルメディアをパレスチナの大義のためのプラットフォームとして利用しました。

真実の重みを背負って

彼にとって、投稿は真実の重みを伴うたゆまぬ努力でした。 彼の立場にある者には本質的なリスクがあるにもかかわらず、彼は粘り強く続けた。

イスラエルは、その野蛮さを世界に暴露する者の存在を容認しない。 しかし、レファート博士は祖国が直面している現実に光を当てるという追求にひるむことはなかった。

レファート博士が殺されたのは、彼の声、言葉、勇気が世界に届き、人々の目を真実に向けさせたからです。 しかし、たとえ彼が不在であっても、彼の教えの響きと彼の揺るぎない精神の共鳴は、彼が灯した聖火を引き継ぐよう世代を鼓舞し続けています。

レファート博士はもうこの世にはいませんが、彼の物語は生き続けています。 彼の死は、彼を愛したすべての人に少しばかりの反感を引き起こしました。

今、パレスチナについて語る人は誰でも、自分の中にリファートの一部を抱えている。

もし私が死ななければならないとしたら、
あなたは生きなければなりません
私の話をするために
私の物を売るために
布を買う
そしていくつかの文字列、
（尾が長くて白くなります）
ガザのどこかの子供に
天国を見ながらあなたがた
炎の中で去った父親を待っている –
そして誰にも別れを告げない
彼の肉体にさえ
自分自身に対してさえも –
凧が見える、あなたが作った私の凧が上がっていく
その上
そして少しの間、天使がそこにいると思います
愛を取り戻す
もし私が死ななければならないとしたら
希望をもたらしましょう
それは物語にしておきます。

あなたの不在の影で、時間とともに消えてしまう儚いキャンドルを灯すことはしません。 その代わりに、私たちはペンと鉛筆に火をつけて、パレスチナの真実を知らない心を覆う闇を貫く言葉を紡ぎ出します。

私たちは黙ることはありません。 私たちは語り続け、あなたの物語とパレスチナの不朽の物語を永遠に織り交ぜていきます。

おいしいパレスチナ

ほうれん草のラムシチュー

シチューはパレスチナ料理の中で非常に人気があり、ほうれん草は冬の野菜として知られていますが、今日では他の多くの野菜と同様に一年中入手できます。

ほうれん草の煮物の作り方をご紹介します。 ほとんどのシチューと同様に､肉を調理することから始めます。

この場合はラム肉を使用していますが、後者の方が好みであれば牛肉でも構いません。 玉ねぎを植物油で黄金色になるまで炒めます。 肉を正方形に切り、塩、ナツメグ、オールスパイスを振りかけ、玉ねぎを加え、色が赤から茶色がかった色に変わるまで一緒に炒め続けます。 肉、特に調理に時間がかかる子羊肉を調理するには圧力鍋を強くお勧めします。 肉を約 4 ～ 5 カップの熱湯で覆い、蓋を閉めて調理します。 （圧力鍋から大きな蒸気の音が聞こえたら、沸騰していることを示します）タイマーを 30 分に設定します。 30 分経ったら火を止めます（圧力鍋を使ったことがない場合は、熱いうちに蓋を開けないように注意してください）。 開封前に 10 ～ 15 分ほど冷ましてください。

その間にほうれん草を切って準備しておきます。 圧力鍋が冷めたら蓋を開け、肉汁を取り出し、約 1/2 カップだけ残しておきます。 ほうれん草からは調理中に水分が出てくるので、シチューではなくスープのような料理になってしまうのは避けたいところです。 （余ったスープは冷凍して他の料理やスープに使用できます）。 肉を調理するには、早い段階でそれだけの量の水を加える必要があります。調理中に水は蒸発するため、水を多めに用意するのが常に良い考えです。

刻んだほうれん草と肉をスープに加え、すべてを混ぜ合わせ、沸騰し始めたら弱火にし、蓋をして 20 分間煮ます。ほうれん草は調理するのにそれほど時間はかかりません。 次に、塩とオールスパイスを加えます。ほうれん草は塩分を吸収するので、加える塩の量に注意してください。

ご飯を添えて、ほうれん草の上にレモンを絞ります。

このレシピは 3 ～ 4 人分で十分です。

ほうれん草のラムシチュー

材料

1 ポンドの肉（ラムまたはビーフ）のカットシチュー風

ほうれん草 1 ポンドみじん切り

甘い白ネギ 1 個をみじん切りにする

植物油 大さじ 1

沸騰したお湯 5 カップ

ナツメグ ひとつまみ

オールスパイス 小さじ 1

説明書

大きめの鍋に油を熱し､みじん切りにした玉ねぎを入れ、きつね色になるまで炒めます。 肉を加え、塩、ナツメグひとつまみ、オールスパイス小さじ 1/2 を振りかけます。 約 5 分間炒めます。

沸騰したお湯 5 カップを肉に注ぎ、圧力鍋を使用する場合は 30 分ほど煮ます。 火を止め、圧力鍋が冷めるまで鍋の蓋を開けます。

肉汁をカップ 1/2 程度残して取り出し、刻んだほうれん草を肉の上に加えて全体を混ぜ合わせ、沸騰し始めたら火を弱め、蓋をして 20 分ほど煮る。

塩と小さじ 1/2 のオールスパイスを加えます。

守ろう！オリーブの木を　カンパのお願い

オリーブ畑再生基金の目的

土地を守ることは抵抗闘争である。
パレスチナの農民の土地を守る闘い、
生活を守る闘いを支援します。
集まった基金は、パレスチナ農業
労働委員会連合（UAWC)に送ります。

郵便振替
記号番号：00960-2-303500番
名称：オリーブの会（オリーブノカイ）

他行等から振り込む場合
店名（店番）：〇九九店（099）
預金種目：当座
口座番号0303500

１２月１７日能勢町での抗議行動

１２月１０日福岡

１２月９日京都市でオリーブの会の講演会

１２月９日福岡

今号の内容

民族浄化、ジェノサイドを止めよう・・・・・・・・1
i-イスラエルのメディアは、緘口令に違反するのか?・・・4
ハンニバル・・・・・・・・・・・・・・・・6
新しい世論調査・・・・・・・・・・・・・・9
大虐殺の解剖学・・・・・・・・・・・・・9
パレスチナ日誌・・・・・・・・・・・・・11
パレスチナの愛した歌・・・・・・・・・・14
おいしいパレスチナー・・・・・・・・・・15
トピック・・・・・・・・・・・・・・・・16

１２月１０日国会前１５００人

１２月２１日得るビット・システムに抗議する国際デー

１２月１６日大阪での抗議行動